

令和5年3月10日

保護者・地域の皆様

世田谷区立桜丘小学校
校長 平松 有理子

学校関係者評価委員会の提言を受けて

日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。さて、この度は学校関係者評価アンケートへのご協力ありがとうございました。集計結果と本校職員の自己評価を学校関係者評価委員の皆様に審議していただき、稻田学校関係者評価委員長より「学校関係者評価委員会の提言」をいただきました。この貴重な提言を令和5年度の教育活動に反映させてまいりたいと考えます。今度とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【回収率について】

昨年度の保護者アンケート回収率は、96.6%という高い数値でした。今年度は、世田谷区の方針により、インターネットでの回答に変更された結果、70%と低下してしまいました。回収率アップについては、次年度の懸案事項とし、学校と家庭、地域が一体となり、その役割を意識して児童の教育にあたるためにもアンケートの協力をお願いしていきます。

1 教育目標「よく考える子」〈知育〉ものごとをよく考え、向上しようとする子ども について

学習指導についての児童アンケートの結果はどの項目も90%以上と高評価であり、年々向上しています。学級では、発言の仕方の徹底、ハンドサインや相互指名等の発言方法や発表形態の工夫を行ってきました。また、「探究的な学び」の学習過程が定着してきたことで、自分の考えや意見を伝え、友達の考えを聞いて学びを深める授業の推進が図ってきた成果だと捉えております。さらに教材や展開を工夫し、引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、考えることや課題解決を大切にした授業改善を進めていきます。

ご家庭においては、学校での授業の様子を話題にする、家庭学習の定着を図るなどの連携をお願いします。

授業の中で効果的なタブレットの活用を目指し、校内GIGA委員の教員を中心に教員研修を進めました。ロイロノートでの意見交流や資料提示等で効果的な活用が進みました。

2 【重点】教育目標「豊かな心をもった子」〈徳育〉思いやりのある優しい子ども について

生活のルールについては、「花の子スタンダード」等による、全校で統一した指導の徹底を図りました。生活指導においては、特に、全教職員による共通理解、共通実践が基盤と捉えています。ただ単にルールを守らせるに主眼を置くのではなく、自分で考え方判断し、行動できるようになるための基本として、「ルールは何のためにあるのか」を考えさせながら指導を重ねてきました。アンケート結果から児童も教員の指導の意図を理解していると言えます。行動につなげられるよう引き続き、繰り返し指導していきます。

あいさつは、人間関係構築の上での基本であり、基礎はご家庭での教育にあると捉えています。学校は、その実践の場です。「あいさつ名人」や「あいさつ宣言」の取組は、児童の意欲喚起につながっています。「語先後礼」ができる児童も大勢います。今年度は、特に1年生児童の一言付け加えたあいさつが素晴らしいです。これらの取組を継続し、様々な機会を捉えて、場や相手に応じた気持ちのよいあいさつが身に付けられるよう工夫してまいります。言葉遣いについては、「ちくちくことば」ではなく「ふわふわことば」を使うことを意識してきましたが、相手が嫌がるあだ名を言ったり、乱暴な言葉を使ったりする場面もあり、指導を重ねました。

相手の気持ちを考えて行動すること、善悪を判断して行動することの重要性をご家庭とも連携しながら、引き続き指導を続けます。ご協力をお願いします。

3 教育目標「健康な子」〈体育〉体を丈夫にし、明るい心をもつ子ども について

体力テストにおいては、全国・東京都・世田谷区の平均と比べ、全体的に低い傾向にあります。特に、ソフトボール投げ（投力）、50m走（走力）、20メートルシャトルラン（持久力）において、課題が見られました。学校では、休み時間の外遊びを奨励しています。できるだけ校庭で遊べるよう、学年で昼休みと清掃時間をずらし、校庭使用を2学年ずつとしていました。3学期からは、校庭使用を3学年として清掃、及び昼休み時間を統一し、外遊びの機会を増やしました。また、早く登校した3年生以上の児童については8時から朝遊びを許可したりしています。集団遊びは、体力を保持するだけでなく、ルールを工夫したり、問題を解決したりする経験を通して、良好な人間関係を構築していくすべを学んでいます。

近視の児童の増加傾向については、学校保健委員会においても、学校眼科医の羽田先生に講演していただきました。姿勢の保持、PCの利用時間制限など、ご家庭と連携しつつ注意を促してまいります。

「早寝、早起き、朝ごはん」については、家庭への啓発を図ります。遅刻者の減少は喫緊の課題です。時間を見守ることは、社会生活においてもとても重要であることは言うまでもありません。次年度も3年生以上で朝の時間を活用したモジュール学習を計画しています。ご家庭のご指導、ご協力を願いしつつ、引き続き、意識の向上を呼び掛けてまいります。

4 学校行事について

児童の「学校行事は楽しい」「達成感がある」の項目に対する肯定的評価が90%以上でした。運動会は、校庭で参観できる学年を2学年に、種目も短距離走、団体競技、表現に増やしました。応援団、リレー、開閉会式、6年生係活動等、コロナ以前の状態に近付けるよう工夫しました。花の子学習発表会も、各学年1単位時間を割り振り、日頃の学習の成果を発表することができました。書初め展、花の子作品展では、子どもたち一人ひとりの個性豊かな作品を展示しました。次年度も、日常の学習の発表の機会として位置付けます。

区の連合行事は、5年生の音楽鑑賞会が昭和女子大学人見記念講堂で開催できました。6年生の連合運動会は、大蔵総合運動場で実施予定でしたが、雨天中止となってしまいました。5、6年生の宿泊行事は、初めてのキャンプファイヤー等、楽しい経験ができました。各学年の校外学習も実施できました。学校行事は、体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深めたり、達成感を味わったりすることができ、学校生活においても大きな意義をもちます。今後も計画的に準備を進め、実施してまいります。

5 キャリア教育について

キャリア教育では、様々な体験活動や地域の方とのふれあいや交流を通して、社会とのつながりを意識できるような活動を行います。そして、これらの活動を振り返る中で自分のよさに気付き、自己肯定感や自尊感情を育み、自分の生き方や将来に夢がもてる教育を展開していきます。

「子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある」（保護者）の項目では、「分からない」が22%に上り、情報発信不足を反省しました。キャリア教育につながる授業や活動の周知を図るとともに、ご家庭とも連携したキャリア教育の充実を目指してまいります。各学年の年間指導計画に、キャリア教育を系統的、段階的に位置付け、さらに地域や外部の方、学び舎の幼児・児童・生徒との連携も積極的に取り入れるようにいたします。

また、キャリアパスポートをさらに活用して、行事や総合的な学習の時間、学級活動等において、子ども自ら目標や課題を設定し、取り組んだことを振り返ったこと等の記録を積み重ね、自身の変容や成長を年間通じて自己評価できるようにしていきます。その自己評価に教員が対話的に関わることで、個性を伸ばす指導へとつなげ、自己有用感をもたせるようにしていきます。また、保護者の方にも本パスポートを通じて情報を共有し、お子さんの成長を見取り、称賛し、励ましていただけますようよろしくお願い申し上げます。

6 教職員について

「ていねいに指導している」「相談しやすい」の項目は、児童、保護者ともに高評価でした。担任だけでなく、専科や養護教諭、講師や支援員、スクールカウンセラーや主事など、相談できる大人を増やせるよう、今後もさらに児童理解を深め、研鑽を積み、一人ひとりを大切にした教育活動を教職員一丸となって進めてまいります。

7 さくらの学び舎について

今年度は、7つの保育園が「さくらの学び舎」に加わり、幼・保・小・中の連携が進みました。学び舎の児童生徒交流は、6年生は授業や部活動、陸上体験等を行いました。今年度は、5年生による中学校見学が実施されました。学び舎あいさつ運動、学び舎給食献立交流、中学生による小学校職場体験等に加えて、中学校の夏の造形イベントにも参加できました。教員研修としては、6月には中学校で、2月には本校において、授業公開、及び協議会を実施しました。また、教員による桜丘幼稚園参観を実施しました。学び舎通信は、学期に1回、年3回発行し、活動内容をお知らせしました。交流や通信により、児童、保護者の周知が進んできましたが、さらなる情報提供を目指します。

8 情報提供について

学校だより、学級だより等の通信やホームページで学校からの情報提供に努めました。学校ホームページの学校日記の記事は、今年度4月より2月末まで975件掲載し、アクセス数は96050件に上りました。

また、すぐーるでの配信も進み、パソコンやスマートフォンですぐに確認したり、掲載写真をカラーで観たりすることができるようになりました。次年度も積極的に情報提供していきたいと思います。

9 学校運営について

学校経営方針については、4月の保護者全体会で説明しました。また、児童に伝わるような言葉をキャッチフレーズとして、「見つけよう大好き 育てよう大好き」とし、自己肯定感の醸成を掲げています。各学期には「鍛える」「表す」「伸びる」を合言葉に進めました。重点目標の明確化と目標の振り返りについては、さらなる工夫と発信に努めてまいります。

10 地域との連携について

地域に根差した学校を目指す上で、地域との連携は重要だと捉えています。今年度は、5年生が経堂むらさき連の方々から阿波踊りを伝授していただくなど、対面での交流活動も増やすことができてきました。また、地域の方をゲストティーチャーにお呼びする学習活動は、様々な学年で実施でき、有意義でした。豊富な地域人材を活用することは、教育環境の深まり、広がりに通じます。今後は、人材バンクを充実させ、保護者、地域との交流、連携を深めてまいります。ぜひとも、ご協力をお願いします。

また、学校支援コーディネーター等の活動内容についても広く周知してまいります。今年度は、コーディネーターの仲介により、農大成人学校と連携が図れ、栽培委員会の活動がNHK 趣味の園芸に取り上げられました。

11 安全面について

「自分の身は自分で守る」ことが安全教育の目標とするところです。災害安全については、特に、地震の際の安全行動の徹底を図りました。緊急地震速報を鳴らし、「『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所でダンゴムシの姿勢」といった具体的な指示をしました。今後も登校時の予告なし訓練など、様々な想定で実効性のある訓練を行ってまいります。教職員も様々な場面で自ら判断できるよう、避難訓練の内容を見直したり、校内研修をしたりしました。また、学校独自に防災・防犯、有事の際等の行動について示した「安全対策マニュアル」の冊子を作成し配布し、周知しています。ホームページからも閲覧できるようにしました。

安全教育は、行動が伴ってこそその学習です。下校時に、友達と追いかけっこをしたり、道いっぱいに広がって歩いていたりなど、はらはらする場面に出遭うこともあるので、引き続き、危険を予測し回避する力を育てるよう安全学習に努めます。今年度は、2年生が歩行者シミュレーターで道路を横断する際の危険を体験しました。交通ルールの徹底については、ご家庭でも繰り返しお話ください。また、大人が範を示すことが大切ですので、共に努めましょう。昨年度から、通学路の通行止め表示を地域の方が出してくださっています。また、交通安全週間には、町会の方が横断見守りをしてくださっています。さらに、PTA 校外委員による登校時の巡回、見守り体制が活発化し、心強いです。通学路の安全点検を実施していただき、危険個所の改善につながりました。

放課後の遊び方については、数件、相応しくない状況が報告され、教員が公園や集合住宅等に指導に向かうことがありました。校外での過ごし方の指導やその都度様子を見に行くことはしましたが、教職員が定期的に見回ることは難しいです。保護者、地域の方々のさらなるご指導とご協力をお願いしたいと思います。地域で大切に見守られた子どもたちは、自分は大事にされていると実感し、自分の安全を大切にする子に育っていきます。